

<コメント・考え> 農家負担がないということで関心も高く、多くの地域で事業要望が出てきた場合、支援する人材が不足することも考えられ、職員の加配が必要となる。農業関連施設の果たす洪水調整機能向上、海岸や港など県土強靱化のためにも、国の補助を含め農業土木関連予算の積極的な増額確保をしていただきたい。



長生西部地区・大谷工区 ほ場整備

Q.6 ICT教育環境を活用した「質の高い学び」について— 学びの充実を

今年度1人1台タブレットが順次導入され、夏季休業中のオンライン HR や、休業にともなう学校での動画配信など、活用の幅が広がってきている。デジタル教科書の活用や情報収集への活用など、平時における学びの質の向上を図るとともに、非常時における学びの保証のために、更にICT教育環境を整え、有効に活用していくことが重要と考えるが？

A 教育長

従来の学習とICT環境をベストミックスした、効果的かつ効率的な教育活動に取り組んでいる。こうした取組みを一層推進し、教員への支援を充実するため、通信環境の増強やGIGAスクールサポーターの配置、県独自サポートサイトの開設など、ICT教育環境の一層の充実に努めており、先進的な取組みなど好事例の横展開を図っていく。さらに、学習支援アプリを活用し、学びのビッグデータを学校での指導に反映することを検討する。

<コメント・考え> タブレット端末などを「ツール」として使いこなし、世界的な日本のICT教育の遅れを取り戻せるよう取組みを進めていただきたい。機器の不具合への対応など、教員の負担が増えており、GIGAスクールサポーターの加配が必要。今後の学習者用デジタル教科書の導入などを考えると、学校内通信環境の更なる整備も必要。

Q.7 「四国総体2022」に向けた取組みについて— 充実した高校生活へ

2022年夏、若いアスリートが集い、スポーツにより人々に勇気や希望を与える、インターハイが24年ぶりに四国で開催される。本県では開会式と6競技が実施される予定で、選手や関係者の受け入れ準備が進むとともに、関係者や観客の来県による経済効果も期待されている。選手や関係者にとって素晴らしい大会となるため、今後の更なる準備と機運醸成が重要と考えるが？

A 教育長

インターハイへの期待感を高めていくため、県内全ての高校や特別支援学校が参加する「高校生・活動推進委員会」を設置し、情報発信に努めてきた。一層の周知を図るため、カウントダウンイベントを開催し、高校生が制作した「カウントダウンボード」のお披露目、高校生によるアトラクション、特別支援学校の生徒による手作り記念品の配布などを行う。さらに総合開会式では、「四国遍路」をテーマにダンスなどで祭典を華やかに彩る。

<コメント・考え> 充実した高校生活になるよう、アスリートだけではなく、大会に多くの生徒たちが関わり、素晴らしい大会にして欲しい。感染症対策に加えて熱中症対策により仮設テントの増設などが必要となるため、実施市町の負担も必要であるが、県としても運営費の増額を図るなど、来県されたアスリートが安心して、ベストコンディションで競技ができるよう要望。



カウントダウンイベントの
(令和3年11月6日)

- ㊤ カウントダウンボードのお披露目
- ㊦ 書道パフォーマンス

用語解説

DX (デジタルトランスフォーメーション) ・進化したデジタル技術の浸透で、人々の生活をより良いものへと変革すること
GX (グリーントランスフォーメーション) ・再生可能エネルギーなど環境に配慮した技術を使い、産業構造を変革すること
GIGA (ギガ) **スクールサポーター** ・GIGAスクール構想(生徒1人1台の情報端末を使用し、個別最適化された教育)の実現のため、学校現場のICT(情報通信技術)活用をサポートする技術者